

第3回 野洲市総合計画審議会（分野4・5専門部会）議事要旨

●日 時

令和7年9月30日（火） 16:00～18:15

●場 所

野洲市役所 本館3階 第1委員会室

●出席委員

新川 達郎 委員(会長・部会長)

林 かずみ 委員

山本 一郎 委員

池田 奈津子 委員

山本 幹夫 委員

奥野 清 委員

※欠席：北村 真治 委員、梅田 麻衣子 委員

●市の出席者

【事務局】政策調整部（総合調整課）

【担当部局】総務部、市民部、都市建設部（都市政策課）、環境経済部（環境課、野洲クリーンセンター、上下水道課）

○会議概要

1. 開 会

2. 挨 捶

…開会にあたり井狩部長より挨拶
…新川会長（部会長）より挨拶

3. 報告事項

…市民意向調査の結果について報告

<質疑・意見等>

委員	(2)の野洲市が実施している各施策の状況のグラフについて、⑪だけ1本なのはなぜか。
事務局	→今回から新たに追加した項目であり、前回の結果がないため今回の結果の1本のみとなっている。
委員	調査結果の概要では学区ごとの回答数が出ているが、これは学区の人口比率から出された数字なのか。
事務局	→学区ごとの回答数については、人口比率に応じたものに反映はできていない。補正については年代のみであり、学区の偏りまでは補正できていないが、データとしては保持しているため、目的に応じて分析することは可能である。

4. 審議事項

<後期基本計画（案）について>

- ・市民意向調査結果と、前回の審議会を経て修正した後期基本計画の各施策について、審議をお願いしたい。
- ・黄色に着色した部分が、前期計画から変更のあった箇所である。
- ・指標については、黄色のものは指標を置き換えたもの。色がついていないものは、前期と

同じ指標だが、これまでの取組を踏まえて、実績値は令和6年度の数値に、目標値は令和12年度の目標に更新している。

- ・基本計画の各施策については、今回の専門部会で概ねのとりまとめをさせていただければと考えている。本日の会議でのご意見を踏まえての修正事項については、各委員に確認をいただいた上で、次回の全体会へ付議させてもらいたい。

○質疑・意見等

4-1 均衡ある土地利用の推進	
事務局	多極ネットワーク型コンパクトシティのイメージ図で示している野洲駅前、北部合同庁舎周辺、総合体育館周辺の3つの拠点に関する記述も追記させてもらいたい。
委員	3つの拠点の1つとして、総合体育館の隣には病院ができ、介護施設もあるが、市民が来やすく、集まれる場所がないと必要な人しか行かない。都市機能の意味が漠然としているが、これで野洲に住んでくれる人が増えるのか。カフェやイベント広場のようなみんなが使える機能が必要ではないか。
担当課	→医療、行政、子育て、教育、文化、商業などの機能を集約していくのがコンパクトシティの考え方である。体育館周辺の拠点で言うと、現在は体育館と病院しかないが、立地適正化計画の想定では、体育館を中心に300mの円を描いている。隣接する農地も将来的に市街化区域に編入される可能性があり、そうしたところも含めて土地利用を図っていくこととしている。
委員	→図書館や福祉センターのあるエリアまで広げる計画はないのか。
担当課	→図書館の周辺は市街化調整区域となっている。将来的に産業系の市街地として拡大していく計画としており、土地活用が図られれば、市街化区域に編入していきたいと考えている。
委員	指標にJR野洲駅の乗降客数があるが、この必要性がピンとこない。野洲駅に行くまでや降りた後のことを考えると、電車に乗ろうという考えにならない人も多いのではないか。
事務局	→野洲駅はまちの中心であり、現在駅前整備も進めており、他市からJRで来てもらうというところも目指している。また、市民が京阪神方面へ通勤されるという面でも乗降客数はこれらを測る指標として設定している。
部会長	→野洲駅周辺が地域の中心としてもっと発展して欲しいが、同時に市民の利便性という面で公共交通の体系も含めて検討が必要ではないかとの意見だと思う。乗降客数を増やすと同時に、便利に使ってもらう視点も必要ではないか。
委員	JR新駅の設置検討とあるが、どこまで進んでいるのか。
事務局	→旧町の時代から、地元の要望としていただいている。まずは周辺のまちづくりが進んでからと考えており、検討として掲載している。
委員	→該当地域が近々、市街化される計画はあるのか。
事務局	→現在、富波乙地先に事業者が立地を計画しておられるが、そうしたことが進むと住民も増加する。そういう情勢を踏まえて検討を進めていくこととなる。
委員	→新駅について、JRとして市から協議は受けているが、計画に書かれているから必ず実現されるものではないという点は慎重に発信いただければと思う。
4-2 自然環境・美しい景観の保全	
事務局	整備を進めている野洲川MIZBEステーションにおいて、市民が自然環境に親しむ場として活用を図っていくことも追記させてもらいたい。
委員	自然と調和した景観を守るとあるが、市内で工事をしている業者にも伝わっているのか。駅前では祇王井川の改修工事が進められているが、歴史と文化のある景

	観を守るはたらきかけを市からもしてもらいたい。 また、市民の自主的な活動を支援するには、担い手の確保が必要と書かれているが、もっと力を入れてやってもらう必要がある。市民が動かないと景観が維持できないのであれば、そのために行政として手立てを打って欲しい。これまでのようにボランティアでやってもらえる人を新たに確保していくのは難しい。また、イベントや事業にかかるお金についても、ふるさと納税などから充当してもらうことも考えてもらいたい。
担当課	→祇王井川については川の断面積が狭く、平成25年には溢水もあったことから、県が河積を広げる工事を実施されている。川をそのまま広げてしまうと車が通行できなくなるため、やむを得ず暗渠化する工事を進められている。景観については、建物については届け出に基づいて審査しており、色合いや屋根の形状のほか、道路からの壁面後退等について指導をしている。
担当課	→ボランティアについては、環境だけの問題ではないが、第3次環境基本計画の策定に今年度から取り組む中で、NPO等への支援のあり方についても検討していきたい。
部会長	景観については、街並みに関する指導や、緑地の確保といったところは進められているが、自然環境への配慮といった点では更に検討の余地があるのではないかとの意見をいただいた。 また、今回新たにCO ₂ 排出量のグラフを入れるといった工夫もされているが、第3次環境基本計画の検討の中で、可能な限り取組方針や指標に環境配慮の具体的な目標も取り入れられるものがあれば検討いただきたい。
4-3 生活環境の保全と上下水道サービスの安定供給	
委員	上下水道管の老朽化について、他県ではショッキングな事故も起こっている。野洲市ではどのような状況か。
担当課	→事故のあった埼玉県では汚水と雨水と一緒に処理されているため、大きな管が使用されているが、滋賀県内では分離して処理されているため、そこまで大きな管はない。市内の一部を3mの管が通っているが、県管理の部分であり、先般確認をされた。その結果、守山市内では心配のある管が見つかり、その部分については直ちに対策をされることだが、野洲市においてもそこへ繋がる管については、5年以内には何等かの対策が取られるものと認識している。野洲市が管理しているのは概ね1m以下の管であり、破損しても大きな事故に繋がる心配は少ない。本市の管は埼玉県と比べると年次経過が少なく、ストックマネジメント計画に基づき順次点検の上、必要な修繕を行っているため、現状では大きな問題はないが、今後、老朽化が進むにつれ、シビアにチェックしていく必要があると考えている。
部会長	→下水管については、敷設自体が比較的新しいため、もうしばらくは大丈夫かと思うが、上水道は50年以上経過しているため、しっかりマネジメントしていただく必要があるかと思う。
部会長	指標のごみ排出量は実績が目標値を下回っており、既に目標値を達成しているが、これはどう考えれば良いか。
担当課	→ごみの分別等によって目標に近い数値に収まっているが、年度ごとのブレもあるため、目標値を変更することは考えていない。
部会長	→将来の目標であり、理想に近い数字を掲げるという手もあるが、担当課の事情を説明いただいた。
委員	→これから人口は減っていくのに、ごみ排出量は増えるのか。
担当課	→令和3年度に一般廃棄物処理基本計画を策定しており、その中で記載している目標値を引用している。今後、見直しは行うが、現在のところはその当時に見込んだ数値でいきたいと考えている。

部会長	<p>上下水道は市民の貴重なインフラであり、アセットマネジメントに基づき、目標を立てて点検や補修を進めてもらいたい。担当課は指標として有収率を設定されているが、耐震性の高い管への更新率といったものもあり得る。今後に向けて検討いただきたい。</p> <p>生活環境については、現時点で全て環境基準を満たしているが、これを維持していくことが大事であり、しっかりと進めてもらいたい。</p> <p>循環型社会については、ごみ排出量は目標を達成しているが、これを維持していくという説明だった。ただ、取組方針として減量化や資源化が掲げられているため、将来的にごみ処理基本計画等も見直しをお願いしたい。</p>
4-4 防災・減災対策の強化	
事務局	取組方針に、地域防災力強化に向けた人材育成の推進にも取り組んでいくことを追記させてもらいたい。
委員	消防団はずつと定数を割り込んでいる状態である。どの分野でも担い手が不足しているが、最低限、現状を維持できるよう、枠組みを越えた仕組みを市全体として考えなければならない時期に来ているのではないか。
部会長	<p>→消防団員が定数を満たしていないところがあり、現場の対策が大至急必要だというご意見かと思う。自主防災組織のなり手の減少や自治会の加入率の低下等の問題が指摘されているところもある。地域の力はいざというときに非常に大事であり、こうした部分の強化を総合的に検討しても良いのではないか。それぞれが単独でできる時代でもなくなってきており、横の連携や幅広く支える仕組みを考えてみても良いかも知れない。</p> <p>市民の命をどう守るのかといった総合的な体制の確立が、取組方針に記載の内容で十分か、改めて確認をお願いしたい。</p>
委員	避難場所に指定されている小中学校の体育館については、耐震や空調の設置等、最低限の整備はしっかりと進めてもらいたい。
部会長	→避難所については、適正な水準を達成しているか国が基準を出し、全国的に整備を進めるよう指示が出ているかと思う。避難所として機能するために必要な備品や設備の整備についても、計画の目標にしてもらえると良いのではないか。また、要配慮者の避難をどうするのか等、考えることは山ほどあるかと思うので、そういったところも総合的に検討願いたい。
4-5 道路ネットワークの整備と交通安全の推進	
委員	道路ネットワークの整備も良いが、横断歩道の線やセンターラインが消えていたり、歩道の雑草で見通しが悪い場所がある。今ある道路のメンテナンスもしっかりとやってもらいたい。
部会長	→道路の安全設備の適切な維持管理は、日常的、計画的に進めていただきたい大事な論点である。指摘を踏まえて検討いただきたい。
4-6 公共交通の利便性の向上	
事務局	公共交通として民間バスやコミュニティバスを維持していく一方で、福祉的な観点で高齢者や子ども等の移動を確保する多様な方策についても検討を進めていく必要があると考えている。
委員	コミバスと民間バスの利用者に大きな差があるのはなぜか。
事務局	→民間バスには、村田製作所行きといった通勤の路線があり、毎日多くの方が利用されている。一方でコミバスは一度に乗車できる人数が少ないと加え、運行本数も限られているため、利用者数は大きく異なる。
部会長	まずは公共交通をしっかり維持していくことが大事であり、現状と課題に基づき、取組方針には利便性の向上と持続可能性が挙げられている。指標はコミバスの乗降客数となっているが、民間バスをどうするのかは難しいところもある。廃止路線候補になりそうなところが出ないような工夫という点から指標化するの

	も手かと思う。
5-1 市民活動・自治会活動の推進	
委員	→コミュニティ活動やボランティア活動に参加してくれる人は少なくなっている、国・県・市から委嘱状が出るような役職も定員割れが起こっている。一方で、自主的な活動もあり、3種類に分類ができると思うが、市ではこれらをどのように捉えているか。
事務局	→消防団を始め、人の確保が難しくなっている現状は承知している。人口が減少し、市職員も減っていく中で、様々なサービスをどのように維持していくのかは、課題として認識しており、整理が必要と考えている。
担当課	→図書館に設置している市民協働室では、団体と団体を繋ぐ、市民と団体を繋ぐ中間支援をさせてもらっている。団体同士を繋げることで活性化し、裾野を広げ、良い循環が生まれればと考えている。
委員	→市民団体の中でも分けて考える必要がある。趣味で集まっている団体は別として、行政サービスを補完しているような団体が特に困っていると思う。団体を整理して、それぞれの団体にどのような支援が必要か考えてはどうか。
部会長	→全体を整理し、それぞれの活動に応じた役割分担や、支援強化の仕方を計画的に考える段階に来ているのではないかとの指摘をいただいた。
委員	私の自治会でも民生委員が決まっていない。こうした状況になったのは、コロナによる活動のブランクが原因だと思っている。徐々に戻りつつあるが、地域の繋がりは希薄になってしまった。このままでは衰退していく一方であり、なんとか立て直そうと考えているが、以前のようにはいかず悩んでいる。
部会長	→自治会も大変な状況にあり、地域で活動してくれる方が不足している。年齢の問題や次世代の発掘など、考えることは多々あるかと思う。制度面、人材面、資金面、行政との役割分担など、改めて考え直す時期に来ており、次の総合計画の主要な課題にもなっているのではないかとの指摘であり、今後検討いただきたい。
委員	市民活動は様々な課題を抱えている。団体数は増えているが、市外で活動されている方もいる一方で、他市から来られている方もおり多様化しているが、組織に属する団体は減少している。 行政とボランティアの間に立ってマネジメントできる人が減ってきていている。コロナの影響もあるが、活動に元気がなくなってきた。一緒に事業ができるやり方を考えていかないといけないが、次世代を担う40~50代のボランティアは非常に少ない。中間に立ってマネジメントする人や背中を押してくれる人をなんとか組織として作らないと厳しいと感じている。団体数だけでなく、中身の問題をなんとかできればとの思いでもうひと頑張りしたいと思っている。そうした思いも計画に入れると有難い。
部会長	→市民活動や自治会活動を活発化するには、中間支援的な機能を充実しても良いのではないかとの意見をいただいた。計画に何かしら反映してもらえればと思う。
5-2 市民との情報共有の推進	
事務局	市民ニーズの把握と、分析結果の市政への反映にも取り組んでいく必要があると考えている。
部会長	ホームページの閲覧数やSNSの登録者数の推移は今後の重要な指標になるかと思うが、数値として押さえているか。こうした数を増やしていく考えは持っていないのか。
担当課	→ホームページについては、先般リニューアルしており、今後はアクセス数を増やしていきたいと考えている。また、新たなツールとして、市長が積極的に市民のもとへ出向き、意見を聞くという機会を設けている。また、Youtubeで市

	長自身が野洲市の地域資産を発信する取組を行っている。
部会長	→取組を説明いただいたが、計画の中でどのように取り上げていくか検討いただければと思う。
5-3 効果的・効率的な行財政運営	
部会長	財政面では厳しい状況が続く中、どう改善していくか。業務の効率化という点では、いよいよ ICT や AI の活用が本格化する中でどのように力を入れていくのか。また、人的、財政的な資源が逼迫する中で、地域にある資源を見直し、それらをより効果的・効率的に組み合わせ、官民連携のような取組をもっと進めていくという説明であったかと思う。記載の内容について進めていただければと思う。

5. その他

<今後のスケジュールについて>

- ・次回の第4回は全体会での開催となる。
- ・日程は 11月 21 日（金）午後 2 時から、会場は今回と同様に第 1 委員会室にて行う。
- ・第4回では、今回審議いただいた基本計画だけでなく、基本構想と総合戦略も含めた計画全体について審議をお願いする。
- ・第4回の審議会後、計画案についてパブリックコメントの実施を予定している。
- ・パブリックコメントの結果を踏まえ、来年 1 月には最終の審議会を予定している。

<本日の意見の反映について>

- ・本日の議論を踏まえた当該分野の基本計画については、修正したものを各委員に確認いただき、全体会の資料とさせていただく。

6. 閉会